

ホタテガイ養殖管理情報

水温が中層（10～15m層）で20℃を超えてきたので、
新貝および成貝の施設は水温の低い下層へ沈めましょう

1 海況

7月15日～21日の陸奥湾の週別平均水温（全層）は、表1のとおりです。各ブイの水温は図1のとおり徐々に上昇し、中層（10～15m層）でも20℃を超えるところが見られてきました。

表1 各ブイの1週間(7/15～7/21)の週別平均水温

観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)
平館ブイ	16.3～19.9	東田沢ブイ	16.9～18.8	横浜ブイ	15.5～19.7
奥内ブイ	17.5～19.8	野辺地ブイ	15.7～19.5	浜奥内ブイ	16.2～19.8
青森ブイ	15.8～19.6	東湾ブイ	13.0～19.1	川内ブイ	16.1～19.3

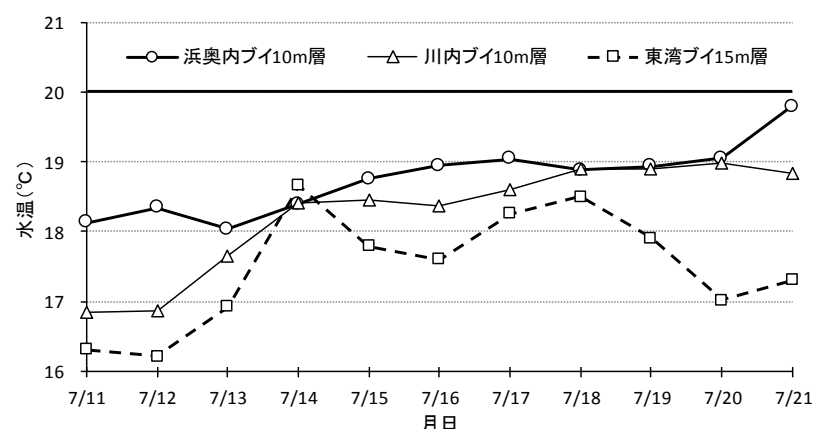
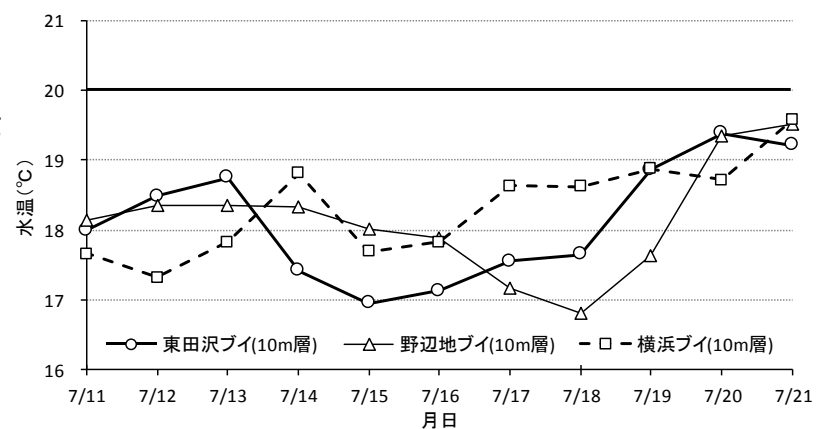
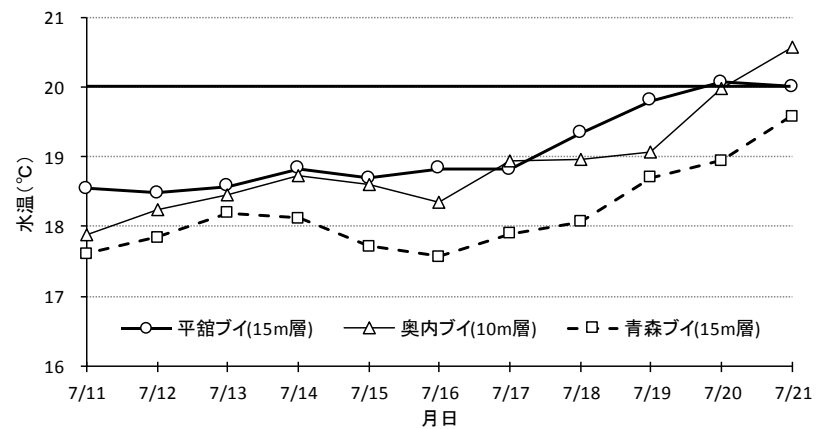


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

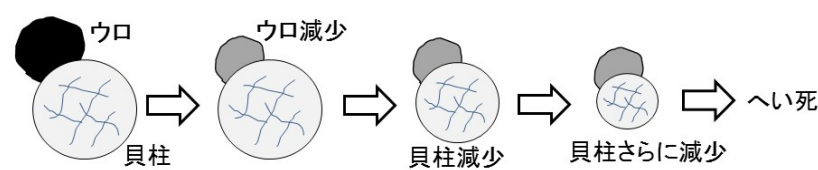


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

2 養殖管理の注意点

これまでの試験結果から、ホタテガイ新貝および成貝の成長と生残率に与える水温の影響と、高水温が続いた場合のへい死のメカニズムは以下のとおりと考えられます（図2～3）。

- 20℃で成長が止まり、それ以降は中腸腺（ウロ）や貝柱のエネルギーを使って生命を維持するが、水温が高くなるほどエネルギーの消耗が激しくなり、最後はエネルギー不足でへい死する。
- 27℃になると、鰓による呼吸ができなくなり、急死する。

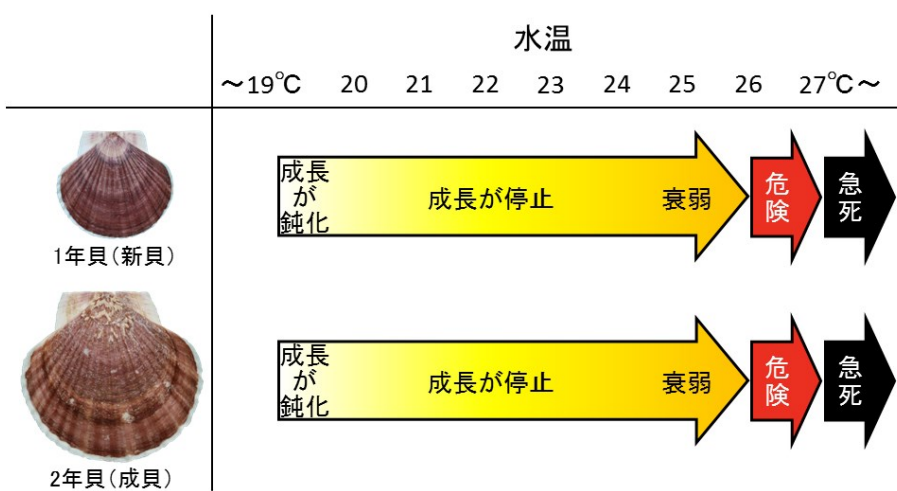


図2 新貝および成貝の成長と生残率に与える水温の影響

①ラニーニャ現象が夏に発生する可能性は低くなりましたが、秋に発生する可能性が出てきたこと、②8～9月の気温が高くなる確率が高いことから、高水温については依然として注意する必要があります。このため、各地区で最も近いブイの中層水温が20℃を超えた場合、新貝および成貝のうち、出荷する予定以外の貝はできるだけ水温の低い下層に沈めてください。

